

## 三重大学教育学部の教育実地研究

根津知佳子

本学部では、2年次に介護等体験を、3年次に4週間教育実習、そして4年次に異校種の学校での2週間教育実習を実施してきた。平成18年度から1年次向けに教育実地研究基礎を選択科目として開設しているが、平成20年度からはこれを必修化する。また4年次に教育実地研究を実施する予定である。これらを通じて実践的指導力および教科教育力・専門力を養うことを視野に入れている。

本学部の実地研究の一つの大きな特徴は、1年次向けの教育実地研究基礎と4年次向けの教育実地研究をそれぞれの学年に応じた役割をもって同じ教育現場に対しグループを形成して関わることである。すなわち、教育現場で求められる課題（Project）、ないし生じる問題（Problem）に対し、学校現場教員及び大学教員と連携してグループを組んで解決を図るという、現場連携型PBL（Project/Problem Based Learning）を実施することである。

教員を目指す学生には大学における理論的な理解と現場体験との絶えざる往還が求められるが、従来の教育実習を長期化することは、学校現場の負担が増大し、かつ現在の大学のシステムでは対応できない。しかしながら一方において、学習ボランティアの形では学校現場から学生の派遣希望が多く寄せられている。したがって、教育実習以外の現場体験は、学習ボランティアの形を発展させた実地研究であれば、学校現場からのコミットが可能となる。

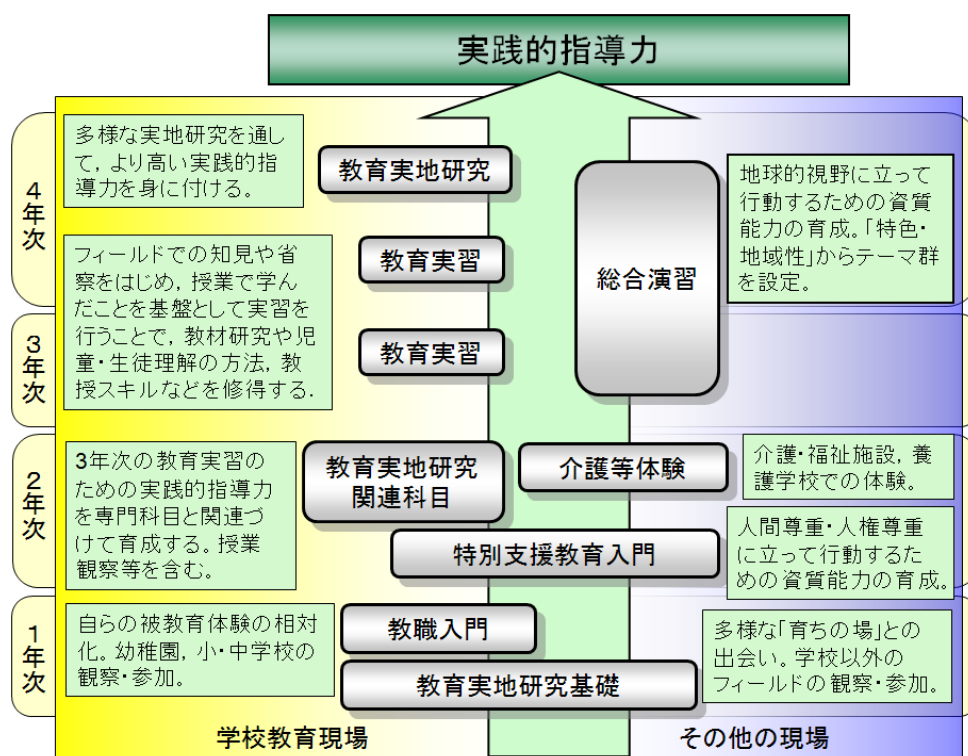


図1 三重大学教育学部のコア科目群

実地研究グループは、実施場所別に大別すると以下のものがある。

主に大学近辺の学校を対象にした日常的なもの：

授業支援	授業観察	
放課後の学習支援	週末クラブの支援	等

主に遠方の学校を対象にした集中的なもの：

学生主体の出前授業	夏休みキャンプ支援	
中学生ロボットコンテスト支援	青少年のための科学の祭典支援	
学生が創出する芸術プログラム	大学生が小学生になる実地研究	等

上記の多様な実地研究を教育的な観点から便宜的に類別したのが図2である。横軸はその活動がどこまで学生の裁量にまかされているかの程度、縦軸は必要とされる教科／教職専門性の程度である。



図2. 実地研究の分類



ポスターセッション

学生、教育現場、大学教員の意思疎通は、検討会における対話を重視しているが、三重大学版のムードルを積極活用し、学生の記録をポートフォリオとして蓄積している。

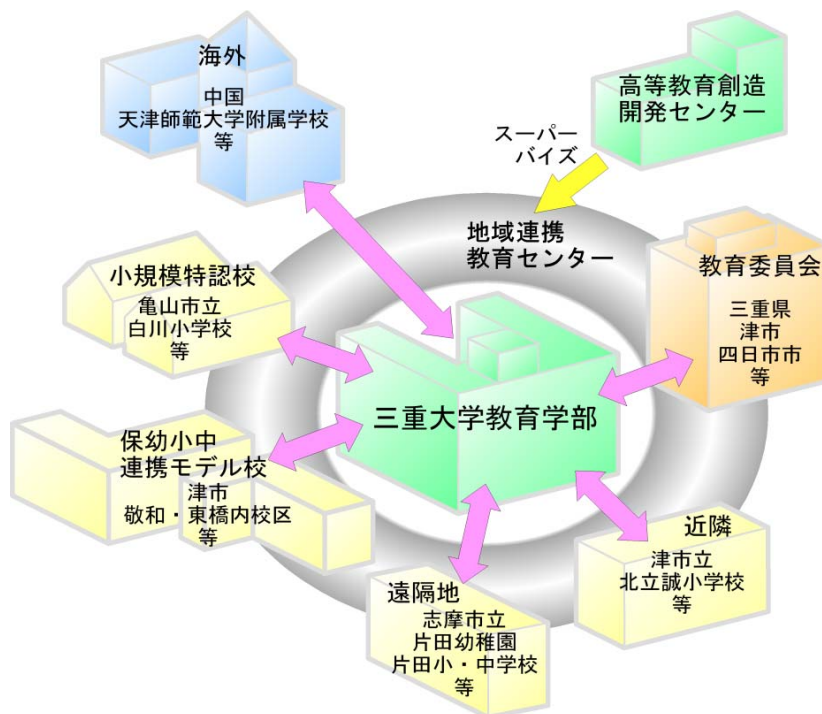
また、多様な実地研究が存在しながらも、個々の学生が体験できる実地研究の機会は限られる。そこで年に数回学生を主体とする実地研究成果報告会（口頭発表及びポスターセッション）を実施している。

これらの取組の特徴は、以下のようにまとめられる。

- ① 同学年、異学年、大学教員及び現場教師との関係を織り交ぜた緊密な学びの共同体を構成している。教育現場で起こる様々な問題を通じて、現場連携型PBL教育により、それぞれの役割を果たしつつ、深く学び合っていくことができる。これは学生に限らず大学教員、学校現場教員にもあてはまることである。
- ② 大学近郊、県内遠方、さらには海外をも含めた多様な実地研究の機会を提供している。学生個々が参加できる実地研究には限りがあるが、口頭／ポスターを織り交ぜた実地研

究成果報告会により、多くの事例を学生が共有することが可能である。

- ③ 三重大学で独自に改良したグループウェア：ムードルを学校現場教員も含めて積極的に利用している。これにより多忙な学校現場教員を含めて、日常から意見交換を行うことが可能となる。また、県内遠方、さらには海外実地研究の場合も距離を意識しない意見交換ができる。



評価方法についての開発も行っている。

c : 寄り添うチカラ					
a 距離 生徒と適切な距離を保つことができる		b 働きかけ 学ぶ意欲を高める働きかけができる		c 受け取る 生徒の事を理解することができる	
a.1. 物理的距離	a.2. 心理的距離	b.1. 生徒の状況に応じて個々に合った教え方ができる	b.2. 生徒の状況に応じて個々に合った言葉がけができる	c.1. 学習面	c.2. 心理面
1. 個々の生徒に合った立ち位置で寄り添うことができる	1. 大学生と中学生という距離感を守ることができる	1. 採点方法の工夫	1. 生徒の学習意欲を高める言葉がけができる	1. 生徒が学習意欲を持って理解できているかを判断できる	1. 生徒の声を丁寧に聞くことができる
2. 人数や教室の様子に応じた距離で接することができる		2. 中学校の学習の文脈に沿った教え方	2. 適度な賞賛と激励	2. 得意／不得意の判断	2. 生徒の言葉の裏側にあるものを読みとることができる
					3. 非言語的な表現を受け取ることができる

